



今年で50周年を迎えた加世田寒蘭展示会



## 堂原 俊和 さん (67)

[ 加世田寒蘭会 会長 ]

# 南さつま 縁人

VOL.56  
MINAMISATSUMA ENGINE

寒蘭とは、ランの一種で、寒の時期に花が咲くためそう呼ばれています。葉・新芽・花芽・花の全てが鑑賞の魅力があるため、四季を通じて楽しむことができる植物です。

県内にある寒蘭会の中では一番歴史が古く、今年で50周年を迎えた加世田寒蘭会で、3年前から会長を務める堂原さんは「世話をするだけ美しい花を咲かせる。子どもを育てる気持ちと同じ」と、目を輝かせながら寒蘭の魅力を話します。

堂原さんが寒蘭に魅了されたのは40代の頃。その花自体の美しさは当然のことながら、若者から年配までの寒蘭愛好家が同じ趣味で何時間でも会話をしていることに「こんな世界があるのか」と衝撃を受けたといいます。それまで趣味として没頭していたサッカーやゴルフなど、体力的に限界を感じ始めて

いたことから、80代・90代まで楽しめる生涯の趣味にすると決めたそうです。

寒蘭はただ咲かせるのは比較的簡単ですが、鉢植えでその姿を美しく安定させて咲かせることは難しく、花の発色・花姿の本質を引き出すために温度・湿度・日照時間を調整するなど、技量を必要とします。

堂原さんは「現在は26名の会員で活動しており、栽培に関して分からない事があれば仲間や先輩に相談したり、様々な地区の寒蘭愛好家と情報を交換したりと毎日が楽しい。一緒に寒蘭の魅力に触れてみませんか？」と笑顔で話しました。



南さつま市に住む、働く、生き生きと活動している人を、南さつま市の輝く原動力（エンジン）としてご紹介します。